

農学国際教育協力研究センターに対するJICAの期待

国際協力事業団森林・自然環境協力部
狩野 良昭

1. 農業分野に対するJICAの協力の現状

2. 協力形態別の協力の可能性

1. 専門家派遣事業
2. 研修員受入れ事業
3. プロジェクト方式技術協力事業
4. 援助効率促進事業
5. 開発パートナー事業

3. 主要な農業分野での大学協力案件

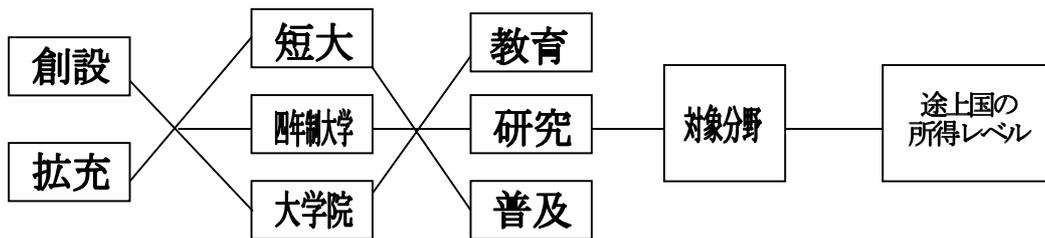
4. 日本の支援大学とJICAとが連携するようになった経緯

1. 教授と途上国の大学の教官との個人的関係が発展して
(留学生、交換教授、客員教授、調査で訪問してなど)
2. 大学間の方針により
3. JICA及び文部省からの依頼により

5. 農業分野での大学協力実施上のポイント

1. 途上国側に起因するもの
 - ① 大学の維持・発展のため一貫性を欠くことがある。
(予算、人員、学生受入計画等)
 - ② 座学志向 (実験、実習軽視など)
 - ③ 博士号取得などへの情熱とその後の淡白さ
 - ④ 施設、機材の老朽化
 - ⑤ 教官、学生の厚生施設の貧弱さ
2. 日本の大学に起因するもの
 - ① 教官の1年以上の長期派遣困難
 - ② 講義、試験など派遣時期が限定され、適期の派遣が困難
 - ③ 専門分野が分化しており、一研究室が対応不可能な場合、同一大学では補完困難
 - ④ 日本と途上国とでは研究の関心分野が異なる
 - ⑤ 中心となる教授は、国内でも多忙な人が多い

6．農業分野での大学協力の種類



7．農業分野での大学協力における組織制度、取り組みの重要性

参考：隆杉実夫「技術協力における組織制度づくりーバングラデシュ農業大学院創設プロジェクトの実例からー」

『開発援助とバングラデシュ』経済協力シリーズ、アジア経済研究所、1998年3月

8．JICAからの期待

1. JICAを積極的に活用していただきたい。
2. 途上国の農業は、途上国において大きな地位を占めており、また、先進国の技術を応用する余地が大きい。
3. 国立大学の農学国際協力の拠点となっていただきたい。

農業開発分野での大学間協力案件リスト

案件名	協力期間	先方実施機関	日本側支援機関
バングラデシュ農業大学院	1985.7.4-1990.7.3	バングラデシュ農業大学院	九州大、佐賀大、宮崎大、鹿児島大、琉球大、山口大
バングラデシュ農業大学院Ⅱ	1990.7.4-1995.7.3	バングラデシュ農業大学院	九州大、宮崎大、佐賀大、鹿児島大、琉球大、山口大
インドネシア、ボゴール農科大学農産加工	1977.10.14-1979.10.13 1979.10.14-1982.10.13 1982.10.14-1984.10.13	ボゴール農科大学	
インドネシアボゴール農科大学院	1988.4.1-1993.3.31 1998.4.1-2000.3.31	ボゴール農科大学大学院	東京大
マレーシア農科大学バイオテクノロジー学科	1990.6.1-1995.5.31	農科大学	岡山大
タイ、カセサート大学	1980.4.10-1985.4.9	カセサート大学	—
タイ、カセサート大学研究協力Ⅱ	1987.4.16-1992.4.15 1992.4.16-1994.4.15	カセサート大学	—
タイ、カセサート大学農業普及・機械化	1981.7.1-1986.6.30 1986.7.1-1987.3.31 1993.7.24-1995.7.23	カセサート大学	—
タイ、チェンマイ大学バイオテクノロジー研	1993.8.1-1998.7.31	チェンマイ大学	三重大、香川大
ベトナム、カントー大学農学部協力	1970.3.7-1973.3.6 1973.3.7-1976.3.6	カントー大学	
ベトナム、ハノイ農業大学強化計画	1997.9.1-2003.8.31	ハノイ農業大学	九州地区大学
ザンビア、ザンビア大学獣医学部技術協力	1985.1.22-1990.1.22 1990.1.22-1992.7.21	ザンビア大学	北海道大他
ザンビア、ザンビア大学獣医学部技術協力Ⅱ	1992.7.22-1997.7.21	ザンビア大学	北海道大他
アルゼンティン、ラ・プラタ大学獣医学部研	1989.3.1-1994.2.28 1994.3.1-1996.2.29	ラ・プラタ大学	東京大他